



霧島市「授業連動型家庭学習」 による授業実践事例集

令和2年2月

霧島市では、全小・中学校で「授業連動型家庭学習」を生かした授業を積極的に実践しています。また、実践後は報告書を作成し、他の教師の実践からも学び合う校内研修等を行っています。

本事例集は、各学校からの報告の中から優れた実践をまとめたものであり、霧島市の全ての先生方が学び合い、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を一層推進するために活用していただきたいと思えます。

成果(授業をした先生方の手応え)

[各学校の報告書から(一部)]

- 授業へのわくわく感・期待感をもって登校していた。
- 家庭学習での取組から、自信をもって発表でき、学習意欲が高まった。
- 家庭学習の取組発表から、児童の発言を生かして学習課題を設定することができた。
- 家庭学習の報告から、データを見比べ、自分たちの生活に直結した疑問をもたせることができた。
- まとめでは、友だちのよい点に注目した発表が多かった。
- 児童の意欲が終末場面まで持続し、授業終了後、楽しかったと満足している児童が多く、日記に感想を書く児童もいた。

練られた良い授業は、授業の各場面で以下のような児童生徒の「あいうえお」の反応が見られます。こうした反応を引き出す授業改善を今後も共に目指していきましょう。



「あっ！」…発見, 気付き

「いいね。」…共感, よさ

「う～ん。」…思考, 問い

「えっ!!」…驚き, ずれ

「おお～」…納得, 実感

霧島市教育委員会ホームページに掲載しています。

<http://www.citykirishima.jp/gakko/kyoiku/gakko/kateigakushu/index.html>



「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔青葉小学校〕

算数科：小学4年 「面積」

〔第8時／全10時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

学習の問題を追及・解決する活動にするために、自分の家の物や部屋、敷地、駐車場等の面積を家庭学習で調べる活動を通して、使うべき面積の単位について関心をもたせ、学習の問題を設定し、面積の単位 cm^2 や m^2 の相互の関係を量感をもって理解させる。

（「授業連動型家庭学習」の手引き：My データ作成型を参考）

〔家庭学習の指示内容等〕

10月27日（水）3校時

家庭学習

自分の家の物や部屋、駐車場等の縦と横の長さを記録し、面積を求め、ふさわしい単位を選択して記録し、気付いたことを書く。（「マイデータ」をもつ）

文には、縦と横の長さの単位を揃えて面積を求め、面積を求めた単位は、ふさわしい単位を選択して記録し、気付いたことを書く。

〔例〕 テーブル、敷地、キッチン、リビング、洗面所、トイレ、玄関、廊下、階段、玄関

はかったもの	たて	横	式	面積(単位まで)
(例)家のキッチン	5m	3m	$5\text{m} \times 3\text{m}$	15 m^2
家の床	13m	4m	$13\text{m} \times 4\text{m}$	52 m^2
家のリビング	10m	5m	$10\text{m} \times 5\text{m}$	50 m^2
テーブル	100cm	80cm	$100\text{cm} \times 80\text{cm}$	8000 cm^2

気付いたこと：家の測りは、大きい物から小さい物まで、さまざまの単位があるのだと思いました。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

10月28日（木）1校時

導入場面

1 家庭学習で調べた内容をグループで報告し合う。

例 「テーブルが縦100cm、横80cmで8000 cm^2 だった。」

「私のテーブルは1m×1mで1 m^2 」

2 各グループの話し合いの内容を発表し、疑問に思ったことを全体で共有する。

例 「Aくんはテーブルを cm^2 で表しているけど、Bさんは m^2 で表しているね。」

「1 m^2 と8000 cm^2 ってどっちが広いの？ 1 m^2 は何 cm^2 なのだろう。」

◎ 家庭学習の報告から、データを見比べ、自分たちの生活に直結した疑問をもたせることができた！

終末場面

4 活用問題として縦と横の長さの違う場合の面積を求める。

縦1m、横80cmの面積は何 cm^2 ？

例 「単位をそろえればいいよ。」

「1m=100cmだから

100×80=8000 cm^2 だ。」

「Aさんのテーブルと同じ広だから正解だ。」

◎ 教科書等に出題された問題と家庭学習でのデータを比較して、答えを確認するなど、主体的な活動につなげることができた！

展開場面

3 家庭学習での調査を想起させ、1 m^2 が何 cm^2 か調べる。

例 「テーブルの縦1mと100cmは同じ長さだよ。」

「1 m^2 =100 cm^2 ではないかな。」

「いやっ、Aさんのテーブルは8000 cm^2 ということから考えると、もっと広いはずだよ。」

「1m=100cmだから、

1 m^2 =100cm×100cm=10000 cm^2 だ」

◎ 家庭学習での取組から、実際の量感をもつことにつながり、思考の材料が増えた！

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔溝辺小学校〕

算数科：小学4年 面積

〔第2時／全10時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

面積の単位「1平方センチメートル」を使って、面積を表す学習への導入である。1平方センチメートルの紙を敷き詰めることによって、数で広さを表すことができるよさを味わわせるために、保護者にも手伝ってもらい、家庭で敷き詰められるもの探しをする活動に取り組み、授業で発表させた。実際に敷き詰めることで、量感もつかませることができた。

〔家庭学習の指示内容等〕

11月25日（月）2校時

家庭学習

- ・ 1平方センチメートルのカードを敷き詰めることができるものを探して、敷き詰め、何枚分であったか調べる。
- ・ 家庭にあるもので適したものが探せるように保護者にも学級通信で知らせ、敷き詰めやすい20平方センチメートル程度のものを準備してもらった。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

11月26日（火）5校時

導入場面

- ・ 探した敷き詰められる物の紹介をし、カードのいくつ分であったかを班ごとに紹介した。
 - ・ 班で二つ選び、何枚敷き詰められたかをクイズをした。
- ◎ 量感がつき、およその枚数が分かるようになった。
- ◎ クイズをすることで、学習への意欲も高まった。

終末場面

- ・ 長方形と正方形の公式について教え、実際に公式を使って面積を求めた。
- ◎ 自分達で公式を見つけることができたので、第4時以降の学習活動が大変意欲的になった。

展開場面

- ・ 1枚のカードの一边は1cmで、その面積は、1平方センチメートルであることを知り、調べてきた物の面積も、面積を表す単位「平方センチメートル」を使うと数字で表すことができることを理解できた。
- ・ 実際に自分の敷き詰めたものの面積を平方センチメートルで表した。
- ・ 正方形や長方形の面積を式を使って求められないかを考え、公式をつくった。

長方形の面積＝たての数×横の数で求められるのではないか。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔佐々木小学校〕

算数科：5年 比例

〔第2時／全5時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

本時は、比例の意味や比例する2つの数量の関係を表す式を理解させる時間である。ともなうて変わる2つの数量関係がどのような場合を比例というのかを表の仲間分けを通して考えさせるため、前時の学習で用いた表を参考にしながら、「ふえるとふえる」の関係にある2つの数量をいくつか自分で考え、変化の仕方を表にまとめる家庭学習に取り組ませる。

〔家庭学習の指示内容等〕

12月6日（金）1校時

家庭学習

「ふえるとふえる」の関係にある2量をいくつか自分で考え、前時の学習で用いた表を参考に2量の変化の仕方を表にまとめてくる。

- 自分が作成した表を見て、気付いたことや考えたことがあれば、吹き出しで記入するようにする。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

12月9日（月）1校時

導入場面

- 前時に学習した変化する2つの数量関係について確認する。
 - 正方形の数が1つ増えるとストローの数は、3本ずつ増えた。
- 児童が作成してきた表を提示し、2つの量の増え方にはきまりがあるかどうかを問い、本時のめあてを設定する。

〔学習問題〕

2つの量の増え方には、どんなきまりがあるだろうか。

終末場面

- 本時のまとめを行う。
- 練習問題を解く。

◎ 家庭学習で事前にいくつか表を作成している中で、その中から比例の関係にあるものを取り上げ、□や○を用いた式を書く練習を行うことができた。

式に表す練習を繰り返すことで、定着を図ることができた。

展開場面

- 作成してきた表を「増え方にきまりがあるもの」、「増え方にきまりがないもの」という視点で仲間分けする。
 - 増え方にきまりがある表の中で比例の関係になっているものを教師が取り上げ、増え方の共通点を話し合う。
 - 比例の意味を確認し、□や○を用いた式の書き方を知る。
- ◎ 表がたくさんあるので、仲間分けしたりきまりや共通点を見つけたりする活動が充実し、活発な話し合いを行うことができた。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔永水小学校〕

国語科：小学3年 れいをあげてせつめいしよう「食べ物のひみつを教えます」
〔全8時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

食べ物について関心を持ち、調べて分かったことを説明しようとする活動である。前單元である「すがたを変える大豆」で、大豆がさまざまな食べ方をされていることに気付いた児童に、各家庭の食卓に上がる食べ物への興味を持たせ、それらがどのような工夫をされてどんな食品に姿を変えているのかを調べさせた。（「授業連動型家庭学習」の手引き:Myデータ作成型を参考）

〔家庭学習の指示内容等〕

家庭学習

児童の各家庭において、「米」「麦」「とうもろこし」「牛乳」「魚」「いも」がどのような食品（食べ方）になっているかを調べてくる。

（「マイデータ」をもつ）

- ・ 家族の人にインタビューする。
- ・ お店に行って、どのような種類やどのような加工をされているのか、などを調べる。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

導入場面（第1時）

- 1 家庭学習で調べてきたことをそれぞれ報告し合う。
児童「牛乳はそのまま飲む以外に、チーズやヨーグルトになることを知りました。」
など

- 2 自分で調べたことや、友だちの発表を聞いて、調べたい材料を決める。

<学習課題>

食べ物のひみつを分かりやすくせつめいする文章を書こう。

- ◎ 友だちの発表を聞いて、自分が調べた材料以外にも興味をもつことができ、調べる材料の選択肢が増えた。

終末場面（第7～8時）

- 8 読み合ってよいところを伝え合う。
- 9 まとめをする。

- ◎ 自分の文章において、分かりやすく説明するために行った工夫について考えることができた。
- ◎ 友だちの文章の分かりやすく説明しているところを見つけ、そのよさを伝えることができた。
- ◎ 本学習で身につけたことをこれからの生活に生かそうとする意欲をもつことができた。

展開場面（第2～第6時）

- 3 調べたい材料をマッピング形式で書き表す。
 - 4 マッピングした物を表で整理する。分からないことや詳しく調べたいことを確認し、調べる方法を考える。
 - 5 図書室の本やパソコン（インターネット）で調べる。
 - 6 文章の組み立てを考え、下書きをする。
 - 7 友だちと文章を読み合い、助言し合って清書する。
- ◎ 自分で集めた情報を整理したり、友だちから助言を得たりして、読み手に分かりやすい文章を書くことができた。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔永水小学校〕

外国語科：6年 オリンピック・パラリンピックについて英語で紹介しよう。
〔第6～8時／全8時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

2020年に開催される大きな行事について自宅にあるパソコンやタブレット・スマートフォンを利活用し、自分が興味関心の高い行事についてまとめるというものを夏休みの課題として出した。外国語科の授業でその内容を単元の内容と合わせてスキット発表するための準備のための手立てとして行った。

〔家庭学習の指示内容等〕

夏休みでの課題

家庭学習

2020年に行われる行事についてICT機器を利活用し、調べてワークシートに記入する。

（「マイデータ」をもつ）

- ・ 家族に相談し、どのような行事があるのかを知り、ICT機器（パソコン・スマートフォン・タブレット等）を活用して調べる。
- ・ 様々な情報から特に自分が必要だと思うものを取捨選択し、ワークシートに記入する。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

10月30日（水）5校時

導入場面

- 1 児童に授業・単元の見通しを持たせる。
（単元の第1時に指導者によるデモンストラーションを行い、単元の見通しを持たせることができた）
- 2 児童にどのような話だったか質問し、話の内容を確認する。

〈学習課題〉

オリンピック・パラリンピック・かごしま国体についてのスキットを発表しよう。

【教師が単元の発表を事前に見せることにより、児童の授業への見通しや、自分たちがすべきことを容易に理解することができた。】

終末場面

6 スキットを他学年やALTに発表することができた。また、発表を聞く児童にも内容を確認する質問をすることができた。

- ◎ 本時の振り返りでは自分たちができたことを児童の言葉でまとめた。また、大切な英語の表現を英語で書き写すことができた。（毎時間のまとめの活動が徹底できた）

展開場面

- 3 宿題で調べた内容を盛り込んだスキットを練習する。
・ オリンピック・パラリンピックの競技やマスコット、かごしま国体の種目や霧島で行われる競技について紹介
 - 4 ALTに発表しアドバイスを事前にもらう。
 - 5 5年生にスキットを発表する。
（複式学級）
- ◎ 上記の活動は児童主体となって活動することができた。また、自分の伝えたいことを英語で話すため、英語を練習する際も積極的に練習することができた。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔川原小学校〕

理科：小学校4年 月や星の動き
〔第2時／5時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

本時で月や星の動き方にはきまりがあることを捉えさせるために、児童には家庭学習で実際に月や星を観察させ、月や星の位置や並び方を実感することで理解を深めさせる。

（授業連動型家庭学習の手引き：Myデータ作成型を参考）

〔家庭学習の指示内容等〕

9月10日（火）6校時

家庭学習

- ・ 観察する場所を決め、月の動き方の観察をする。
- ・ 観察したことをカードに記録し、気付いたことや分かったことも記入させる。
- ・ 事前指導で、夜の観察の注意事項を確認させる。
（観察は必ず家の大人と一緒に行うようにする。）



〔◎ 授業における改善点・成果等〕

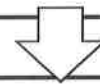
9月17日（火）3校時

導入場面

- 1 家庭学習で観察した内容を各自発表する。
 - ・ 月の形がちがった。
 - ・ 月がでてくる時刻がちがった。
 - ・ 東から南のほうへ動いて見えた。
- 2 学習のめあてを決める。

月も太陽と同じような動き方をしているのだろうか。

- ◎ 家庭学習の取組発表から、児童の発言を生かして学習課題につなげることができた。



終末場面

- 5 学習のまとめをする。
 - ・ 月は太陽と同じように東から南を通過して西に動いている。
 - ・ 月は日によって形がちがう。
 - 6 今後も継続して月の観察を行うことを確認する。
- ◎ 授業から家庭学習へのつなぎを行い、学習の定着と関心意欲を深めることができた。



展開場面

- 3 観察の結果をもとにして、月の動き方や形について確かめる。
 - ・ 半月・・・夕方、南から西へ動く。西の方へしずんだ。
 - ・ 満月・・・夜、東から南へ動く。太陽と似ている。
- 4 教科書やデジタル教材を活用して、月の動き方や形について確かめる。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔天降川小学校〕

算数科：2年

〔第7時／全9時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

小さいかさを表す単位「ミリリットル（mL）」を理解するために、家庭にある様々な容器のかさの表示を調べる活動を行う。単に知識として単位を覚えるのではなく、かさの単位の大きさを量感を伴って理解させることにつなげる。

〔家庭学習の指示内容等〕

9月10日（火）2校時

家庭学習

1デシリットルより小さいかさを表す単位に「ミリリットル（mL）」があることがわかりました。実は、ミリリットルは身近な物のかさを表すときに使われています。

お家に帰って、ミリリットルを使ってかさをあらわしているものがないか調べてみましょう。

どんなものが、何ミリリットルかを調べてきてください。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

9月11日（水）3校時

導入場面

身近な物のかさはどのように書き表されているか、調べてきたことを話合いましょう。

〈グループで交流〉



〈全体で話合い〉

終末場面

- mLと書かれている物はたくさんあった。
- ほとんどが、飲み物とか醤油とか水みたいなものだった。でも油とかグラムgで書いているものもあった。
- 小さいかさを表すだけではなく、醤油とかお酒とか大きい容器にも使われていた。

☆ 次の時間は、身近にあるいろいろな物のかさを、これまでに学んだ単位を使って表してみましょう。

展開場面

- ・学校給食の牛乳パック→200mL
- ・家庭で飲む牛乳パック→1000mL
- 小さいかさを表す単位にミリリットル（mL）があると思っていたけれど1Lも1000mLと書いてあったよ。
- ・ヤクルト→65mL
- ・チオビタ→100mL
- 飲み物にはmLとかいているものが多いよ。
- ・化粧品→160mL 醤油→750mL

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔国分小学校〕

国語科：2年 あったらしいな こんなもの
〔第1 1時終了後／全1 4時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

前時までに、自分の考えた道具「あったらしいな こんなもの」について組み立てを考え、発表メモを作成した。相手によく分かるように、話す順序を考え、声の大きさや速さなどに気をつけてみんなの前で発表する前に、保護者に聞いてもらい、質問や感想などを言ってもらうことで発表の練習をすることができる。（「授業連動型家庭学習」の手引き：My データ作成型を参考）

〔家庭学習の指示内容等〕

1 2月第1～2週

導入場面

- 1 「あったらしいな こんなもの」を全員で読み、自分の考えた「あったらしいな こんなもの」の発表会を開くことを知る。
- 2 本時の学習課題（めあて）を考える。

あったらしいな こんなものはっぴょう会をしよう。

- ◎ みんなの前や家族の前で、あったらしいな こんなものはっぴょう会をすることを目標にすることで、児童の意欲が高まった。

終末場面

- 4 あったらしいな こんなもの発表会の感想を発表する。

- ◎ 本時のまとめでは、友だちの発表の内容面や態度面からよかったところを見つけることができた、友だちのよい点に目を向ける発表が多かった。
- ◎ 児童の意欲が終末場面まで持続し、授業終了後、楽しかったと満足げな子どもが多く、日記等に感想を書いてくる児童もいた。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

12月7日（土）12月8日（日）

家庭学習

「あったらしいな こんなもの」の絵や発表メモを持ち帰り、家族の前で発表をする。保護者は、その発表を聞いて、質問をしたり、感想を述べたりする。

（「マイデータ」をもつ）

- ・ 親子と一緒に「あったらしいな こんなもの」について話し合う。

展開場面

- 3 「あったらしいな こんなもの」はっぴょう会を開く。

- ・ みんなの前で、「あったらしいな こんなもの」の絵を見せながら、話す順序を考え、声の大きさや速さに気をつけながら発表をする。
- ◎ 児童が主体的に発表していた。日頃恥ずかしがり屋な子どもも、自信を持って発表していた。
- ◎ 話すことと共に、聞く態度もよく、活発な意見のやりとりができた。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔三体小学校〕

算数科： 3年

〔第7時／全10時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

現行の学習指導要領では、算数科の目標として、「数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解する」ことが求められている。本単元では、学習したことを身近な人に説明する活動を通して、円と球について理解することを目標にしたい。

〔家庭学習の指示内容等〕

11月6日（水） 2校時

導入場面

- 1 授業をとおして、円と球について基本的な知識を学ぶ。
はじめのうち、児童からは「新しい言葉が多くて覚えるのが大変だ。」「半径と直径の違いがよくわからない。」という声が聞かれた。
- 2 円と球の定義について、学習したことを文章にまとめる。
コンパスの使い方を学習してから、きれいな円を作図し、様々な模様を描くことで楽しみながら円の作図ができていた。



〔◎ 授業における改善点・成果等〕

11月7日（木）2校時

展開場面

- 3 円を作図する。球については、実際に発泡スチロールの球を半分に割る体験を通して、球の中心、半径、直径について視覚的に理解する。
 - 4 円と球について、文章と図、写真を用いて説明したリーフレットを作成する。保護者に説明することを意識して、発表の練習をする。
- ◎ 学習した内容を冊子にまとめ、発表することができる。



終末場面

- ◎ 学習した内容を保護者に説明する活動をとおして、児童の理解を深めることができた。
 - ◎ 教師からの質問に対し、円や球の定義について、自分の言葉で説明することができるようになった。
- （深化・発展型）



家庭学習

〔作成したリーフレットをもとに、自分の学習した内容を保護者に説明する。〕
保護者からは、「絵や写真があり説明がわかりやすい」「コンパスを上手に使ってきれいな模様が描かれていた」などの感想があった。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔持松小学校〕

国語科：4年 調べたことを整理し、発表しよう「だれもが関わり合えるように」
〔第15時／全15時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

本校の4年生は3名で極小規模のため、発表する相手が限られており、職員に発表する機会を設定する等の工夫を行ってきた。さらに、家庭でも発表する場を設けることにより、保護者に学習してきた成果を伝えたり、授業の様子を知らせたりしながら、家庭を巻き込んだ家庭学習を進めることで、子供の成長を共に喜ぶことができる。

〔家庭学習の指示内容等〕

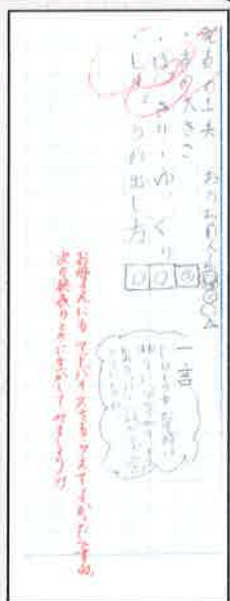
10月2日 家庭学習

家庭学習

授業で発表したことを家庭でも発表する。

※ 保護者に子供自身が立てた3つのめあてへの評価と一言コメントをもらう。

◎ 保護者に学習の成果を伝えることができた。また、保護者からの励ましをもらうことで、子供たちの学ぶ意欲も向上した。



〔◎ 授業における改善点・成果等〕

10月2日 1校時

導入場面

- 1 前の時間の振り返りをする。
 - 聞き手を引き付ける発表の確認（相手意識を持たせる。）
 - ・ 声の大きさ/速さ
 - ・ はっきり
 - ・ 間の取り方
 - ・ 資料を出すタイミング

- 2 本時のめあてを確認する。

学習したことを生かして、「だれもがよりよく関わり合う」ための発表会をしよう。

終末場面

- 4 感想交流をする。



6年生は、4年生の時に学習したことを思い出しながら感想を言ってくれた。

- 5 学習の振り返りをする。

- 今回学習して学んだことやアドバイスをもらったことを生かして家庭でも発表することを伝えた。

展開場面

- 3 発表会を行う。
 - 5・6年生、職員に対して発表を行った。

- 多くの人に発表を聞いてもらう機会を設けた。



◎ 聞き手を意識することで、間の取り方や資料を出すタイミングなどに気を付けて発表することができた。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔国分北小学校〕

国語科：1年

〔第9時／全12時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

1年生の発達段階において、この学習の問題を追究解決するためには、授業で一人調べを行う活動よりも、事前に家庭の協力を得た家庭学習が効果的であると考えます。

この取り組みを通して、言葉に興味関心を持たせ、調べたことを授業に生かし、より充実した学習を目指していく。

〔家庭学習の指示内容等〕

11月15日（金）

家庭学習

日報でじどうしゃくらベクイズについて、保護者へ協力依頼をする。

- ・ 授業内容についての説明
- ・ ワークシート記入例とワークシートを配布
- ・ 親子で楽しくクイズ遊び・作り（保護者は支援者の立場として）

◎ 授業へのわくわく感・期待感をもって登校していた。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

11月18日（月）2校時

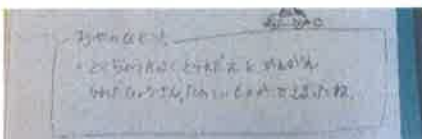
導入場面

- 1 前時の復習
- 2 めあての確認
「じどうしゃクイズをはっぴょうしよう」
 - 本時の学習の進め方
グループ→全体→振り返り
 - 気をつけること
 - ・ 発表をよく聞きく
 - ・ 意欲的に発表する 等

◎ 家庭学習から、自信をもって授業に臨む姿が見られた

終末場面

- 5 振り返りを行う
 - ・ クイズの感想
 - ・ 自分や友だちの良かった点
- 保護者への連絡（日報）お礼
- 保護者からのコメント



◎ 振り返りを行うことで、自他のよさに気付かせ、調べ学習に興味関心をもたせることが出来た。

展開場面

- 3 家庭学習で考えたクイズをグループで発表し合う。
- 4 全体で発表する。



◎ 家庭学習での取り組みから、自信をもって発表でき、学習意欲が高まった。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔国分南小学校〕

国語科：4年 「カンジー先生の漢字しりとり」

〔第2時／全2時間〕の計画

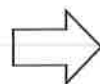
〔本時の授業と家庭学習との関連〕

漢字しりとりを楽しみ、漢字を正しく読んだり書いたりすることができる。

同じ音をもつ漢字のしりとりをすることを学習し、「漢字しりとり大会」を開くために、家庭で準備をすすめさせる。

〔家庭学習の指示内容等〕

9月10日（火）4校時



〔◎ 授業における改善点・考えられる成果等〕

9月11日（水）3校時

前時終末場面

- 1 教科書の例題をもとに、漢字しりとりのルールを理解する。
- 2 同じ読み方をする漢字でつなぐしりとりであることを確認する。
- 3 教科書の例題を解き、「漢字しりとり大会」を楽しめるように家庭学習で問題を作成してくる。

◎ 2問作成できるワークシート（カード）を家庭学習用に持ち帰らせた。子どもたちの次時の学習への意欲を高めることができた。

家庭学習

「漢字しりとり大会」を楽しめるように児童一人一人が、カードを作成してくる。ワークシート（カード）をもとに作成する。

※ 状況に応じて、漢字辞典や国語辞典も利用する。



展開場面

- 2 家庭学習で作成してきたカードで「漢字しりとり大会」を楽しむ。（それぞれのグループで作成したカードをローテーションさせる。）

◎ 家庭学習で、問題作成を行うことができていたので、数多くの問題を準備することができた。

◎ 相互に問題を解く時間を多く確保することができた。

◎ 問題作成に際して、じっくりと辞典を活用させる時間の確保もできた。

導入場面

- 1 本時のねらいを確認し、「漢字しりとり大会」の進め方の確認をする。

△ 家庭での学習が十分にできずに、問題を作成できていない子どもがいた。授業時間内に、思いつく問題を作成するように声掛けをした。



「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔溝辺中学校〕

数学科： 1 年 空間図形

〔第10時／全20時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

本時の授業では、授業連動型家庭学習【B 深化・発展型】をイメージして授業設計を行った。〔授業①〕で面が動いてできる立体について学習した。終末で「身のまわりにある回転体は？」と質問し家庭学習につなげた。〔授業②〕では、自分たちで発見した回転体をグループで共有し、どのような平面図形を回転させているのか考えさせた。

〔授業①〕12月10日（火）4校時

<学習課題>

下の直角三角形を動かすとどんな立体ができるだろうか。また、どのように動かしたのか説明しなさい。



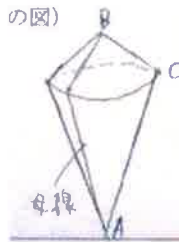
<展開>

- どのような動かし方があるのかイメージし、三角定規を動かしながら課題に取り組む。（垂直方向に動かす・回転・斜めに動かす等）（回転軸を変えることで、立体が変化することに気付かせる。）

〔授業①〕12月10日（火）4校時

<生徒の意見>

の図)



<終末>

- どのように動かしたのか説明する。
- 回転体についてのまとめ（特徴を捉える）

〔授業②〕12月11日（水）3校時

<学習課題>

どのような図形をもとに回転させてできた立体だろうか。

- 1 自分たちで探してきた回転体を取り上げ、グループで考えてみたい回転体を選ぶ。
- 2 どのような平面図形を回転させてできた立体なのか考える。
- 3 本時のまとめを行う。
 - ◎ 自分たちが探してきた課題を解決する授業になり、意欲的に取り組む姿があった。
 - ◎ 個人追求の時間を確保できた。

〔家庭学習の指示内容等〕

家庭学習

身のまわりにある回転体を探す。

- * どのような図形を回転させているのか考えておく。



「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔横川中学校〕

数学科： 1年 1次方程式

〔第10時／全14時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

本時では、方程式を使って、身近な問題を解決する学習である。文章題に含まれている相等関係をはっきり捉えることを意識させ、また、方程式を解いた後に、その解がはじめの問題の答えとして適切なものであるかどうかを判断してほしいと考える。そのために、事前に家庭学習で予習を行うことで、学習内容の理解が深まると考える。

〔家庭学習の指示内容等〕

10月15日（火）5校時

家庭学習

へいを利用して、下の図のような長方形のウサギ小屋をつくります。
長さ24mの金網を全部使って、横が縦より3m長い小屋をつくるには、縦の長さを何mにすればよいですか。



終末場面

5 授業のまとめを行う。

- ・ 方程式の解が、そのまま問題の答えになるとは限らない。
- ・ 方程式の解が、問題に適しているか確認が必要だ。

6 本時の振り返りを行う。

3つの視点①何をしたか②何を学んだか(気付いたか)③どう生かしたいかの振り返りをさせる。

- ◎ 振り返りを行うことで、本時の授業に対する自己評価や次時の学習に向けての意欲を高めることができた。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

10月16日（水）2校時

導入場面

- 1 予習の取り組み状況の確認を行う。
- 2 予習の答え合わせを行い、理解できているかの確認を行う。
 - ・ 予習の問題に関しては全員理解が出来ていたが、解の確かめまでしっかり書いている生徒は少なかった。
- 3 予習の内容をもとに、本時の学習目標を設定する。

【学習目標】

方程式の解を、そのまま問題の答えとしていだろうか。

- ◎ 予習により、生徒は授業で何を学習するのか理解できているので、主体的に学習に臨めることができた。

展開場面

4 深化問題に取り組む。

（二人の会話）

委員長「1試合18分は、中途半端だなあ～。休憩時間を減らしたら、1試合20分確保できるかも。よし、休憩を4分にしてみよう！」

副委員長「1試合の時間をX分とすると、・・・(説明)・・・。だから1試合20分確保することはできませんよ。」

副委員長の(説明)を聞き、委員長は納得していましたが、僕には二人の会話があまりよく聞こえませんでした。一体、副委員長はどのような説明をしたのだろう・・・

- ◎ グループで、お互いの解答、考えた理由の説明をさせた後、全体発表させることで対話的活動の充実につなげることができた。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔横川中学校〕

社会科：中学2年（特別支援学級）中国四国地方の人々の様子をとらえよう①
〔第3時／全4時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

前時では、中国四国地方の人々の様子をつかませた。瀬戸内地方には人口が集まっているものの、山間部を中心に過疎化が進んでいることをつかませた。本時では、過疎地域で行われている村おこし、町おこしを紹介した上で、身近な地域で行われている過疎化の対策をつかませる。家庭学習では、横川地域で行われている町おこしを調べさせた。

〔家庭学習の指示内容等〕

11月1日（金）2校時

家庭学習

横川地域で行われているイベントを調べる。個数に特に制限は求めない。

自分の経験だけでなく、家族や友人に聞いてもよい。テレビやインターネットなどを使ってもよい。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

11月11日（月）3校時

導入場面

1 四国地方で走っている「アンパンマン列車」や境港市の鬼太郎ロードを紹介し、これらの活動が行われている理由を考える。

本時は、家庭学習で取組んだ内容が、身近な町おこしの活動につながっていることを理解する。

<学習課題>

村おこし、町おこしとはどのような活動だろうか。

◎ 家庭学習の取組を通じた生徒の反応から、学習課題を授業開始8分で設定することができた。

終末場面

◎ 本時のまとめを生徒のことでまとめる活動をすることができた。

◎ 本時の振り返り（課題に対して、何が分かったできるようになったか等）を2名の生徒に発表させることで、生徒同士の自己肯定感を高める時間を3分確保して、授業を完結させることができた。

展開場面

2 自分たちで調べてきた地元のイベントを発表する。どんな活動が行われているか、またどんなキャラクターがいるのか発表する。

3 発表や意見を聞く際は、多様な考えがあることを理解する。

例 「7月には、大隅横川駅で平和祈念コンサートが行われています。」

◎ 上記3、4の活動は、生徒が主体となって意見を交換することができた。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔霧島中学校〕

外国語（英語）科：中学2年 Unit 4 異文化理解と助動詞を用いた表現
〔第2時／全8時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

本単元は、ホームステイ先での異文化理解を通じた対話が設定されており、単元の見通しをもたせた後、生活様式や習慣的行動等について日本との違いを考えながら、パソコン室で調べ学習を行った。さらに家庭でもより詳しく調べたことをメモし、次時の活動でALTに説明し、意見交換を英語で行うことで、より深い学習を目指した。

〔家庭学習の指示内容等〕

10月15日（火）5校時

導入場面

海外旅行体験の話をしなが、日本や海外の文化様式について学習を深めるとい、本単元の見通しをもたせた。

展開～終末場面

○ 「しなければならないこと」や「してはいけないこと」について、文法の説明を行い、次時に向けた単語の指導を行った。

授業課題を家庭学習につなげる

ワークシートに好きな国を記入し、日本には無い文化的特徴やしきたり、ルール等を調べてくる。

* 授業で話題にした衣・食・住の視点を活用させる。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

10月16日（水）4校時

導入場面

ALTが作成したワークシートを使って、自国の特徴を振り返り、またイギリスとの文化の違いを知ること、学習意欲を高める。

The image shows two worksheets side-by-side. The left one is titled 'A Guide to British Culture' and has a UK flag icon. It contains a table with Japanese words and their English equivalents, and a list of 4 questions in English. The right one is titled 'A Guide to Japanese Culture' and has a Japanese flag icon. It contains a table with English words and their Japanese equivalents, and a list of 5 questions in English.

<学習目標>

調べた国と日本の文化の違いについて、友達に発表しよう。

◎ 学習への意欲化を図り、本時の目標にせまる態度をもたせることができた。

展開～終末場面

- ◎ 生徒が宿題で調べた文化的特徴について、自分の知っている単語を使ってALTや友達に紹介したり、説明を聞いたりする流れにスムーズに持っていくことができた。
- ◎ ALTに紹介する際には、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が見られた。
- ◎ 家庭学習と連動することで、ALTとの対話活動により時間を割くことができた。調べた内容に関連した事項にも自然と触れることができ、習慣の違い等について幅広い学びにつながった。

調べ学習や発表、ALTの話の際には、今まで知らなかった知識や情報を、要点のみメモするよう指導を行った。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔舞鶴中学校〕

英語科： 2年 見て、読んで伝わる詩カードを作成し、発表しよう。
〔第1時／全3時間〕の実践

〔本時の授業と家庭学習との関連〕

自分で考えた英語の詩を発表する活動の時間を確保するために、事前に家庭学習で取り組ませるようにした。その際、英語が苦手な生徒も取り組みやすいように、辞書やインターネットの翻訳機能等を活用してもよいこととした。

〔家庭学習の指示内容等〕

12月9日（月）2校時

家庭学習

- ・ 自分の興味のあるもの、季節をもとに英語で詩を考えてくる。
- ・ 辞書やインターネットの翻訳機能を使ってもよい。
- ・ 自分の伝えたいことが相手に伝わるように単語や表現を選ぶこと。

〔◎ 授業における改善点・成果等〕

12月12日（木）4校時

導入場面

- 1 それぞれノートに書いた下書きのチェックを受けた生徒から清書に入る。
- 2 学習課題

見て、読んで伝わる詩カードを作成し、発表しよう。

- ・ 詩は発表会をするため、事前に生徒同士で見せ合う活動は行わなかった。

終末場面

- ◎ 本時の評価と振り返りを生徒同士で時間いっぱい行うことができた。
- ◎ クラスメイト一人一人からもらったアドバイスやコメントを、まとめて個に返すことで、次の活動に生かせるようにする。（一人一人の自己肯定感を高めることができた。）
- ◎ 英語の苦手な生徒も家庭学習に取り組んでいたため、みんな揃って発表の準備ができた。

展開場面

- 3 一人一人のカードを写真に撮り、プロジェクターで投影することで発表会を行う。
 - 4 クラス全員が評価をし、一人ずつコメントを記入する。
- ◎ 上記3、4の活動は、生徒が主体的になり、楽しんで互いの作品を評価できていた。